

第2部 分析と考察

1. 三者比較、二者比較

同じような質問項目に対する回答を「生徒」「保護者」「教員」の三者で比較した。

i) 授業理解について

(生徒) 3. 「授業内容はよく理解できている」

(保護者) 3. 「子どもは授業内容をよく理解できているようだ」

(教員) 2. 「生徒は授業内容をよく理解できているようだ」 について考察した。

併せて、(生徒) 2. 「授業時間中は集中できている」 = 『集中』、

4. 「授業がわからない場合は先生に聞く」 = 『質問』

(保護者) 2. 「子どもは授業のことについて家庭でよく話をしている」 = 『親子』

4. 「子どもは授業がわからない場合は先生にきいているようだ」 = 『質問』

(教職員) 1. 「生徒は熱心に授業を受けている」 = 『熱心』

についても調べ、それぞれの「よくあてはまる」 + 「ややあてはまる」が占める割合も示す。

授業理解	1年生徒		2年生徒		3年生徒				
よくあてはまる	44	14%	よく+やや	40	13%	よく+やや	64	20%	よく+やや
ややあてはまる	191	61%	75%	185	58%	71%	192	61%	81%
あまりあてはまらない	72	23%	集中84%	80	25%	集中76%	53	17%	集中78%
あてはまらない	7	2%	質問50%	14	4%	質問49%	7	2%	質問50%
合計	314	100%		319	100%		316	100%	
	1年保護者		2年保護者		3年保護者				
よくあてはまる	12	5%	よく+やや	20	9%	よく+やや	38	17%	よく+やや
ややあてはまる	138	58%	63%	97	46%	55%	135	59%	76%
あまりあてはまらない	72	30%	親子53%	76	36%	親子45%	46	20%	親子47%
あてはまらない	16	7%	質問41%	19	9%	質問43%	9	4%	質問53%
合計	238	100%		212	100%		228	100%	
	教職員								
よくあてはまる	8	15%	よく+やや						
ややあてはまる	37	70%	85%						
あまりあてはまらない	8	15%	熱心94%						
あてはまらない	0	0%							
合計	53	100%							

○全体として、教職員>生徒>保護者の順に「よく+やや」の割合が大きく、生徒は“教員が感じているほどは理解していないが、保護者が思っているよりは理解”していることがわかる。

○「質問に行く」生徒は全学年ほぼ半分ということで共通している。この項目は生徒や保護者の満足度との関係が深い。質問しやすい環境づくりに努めるとともに、教職員アンケートにも「生徒の質問に丁寧に対応している」「質問しやすい環境が・・・」など生徒の質問に関する項目があっても良いかもしれない？

○僅かな差のものも多いが、2年生が「理解度」「集中度」「質問に行く」「保護者に授業のことを話す」割合が最も低い。⇒学業から気持ちが離れてしまい（所謂、中弛み）、保護者の関心も低くなる年次か？※調査（保護者アンケート回収率も2年生が例年一番低い）

ii) いじめ対応について（今年度新設）

- (生徒) 13. 「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」
 (保護者) 20. 「本校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」
 (教員) 15. 「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」 について考察した。

いじめ	1年生徒		2年生徒		3年生徒				
よくあてはまる	87	28%	よく+やや	60	19%	よく+やや	66	21%	よく+やや
ややあてはまる	158	50%	78%	160	50%	69%	168	54%	75%
あまりあてはまらない	54	17%		77	24%		57	18%	
あてはまらない	15	5%		20	6%		22	7%	
合計	314	100%		317	100%		313	100%	
	1年保護者		2年保護者		3年保護者				
よくあてはまる	31	13%	よく+やや	24	11%	よく+やや	23	10%	よく+やや
ややあてはまる	158	68%	82%	142	68%	79%	148	67%	78%
あまりあてはまらない	39	17%		38	18%		43	20%	
あてはまらない	3	1%		6	3%		6	3%	
合計	231	100%		210	100%		220	100%	
	教職員								
よくあてはまる	8	15%	よく+やや						
ややあてはまる	37	70%	85%						
あまりあてはまらない	8	15%							
あてはまらない	0	0%							
合計	53	100%							

○全体として、教職員＞保護者＞生徒の順に「よく+やや」の割合が大きく、“教職員が対応できていると思っているほど対応できていない”だけでなく、“保護者が対応してくれていると思っても生徒は十分だと感じていない”もしくは“生徒がいじめられていることを教職員や保護者に言えていない”ことがわかる。

○生徒と保護者の「よく+やや」の割合には相関関係があるが、2年生ではその差が明らかに大きい。また、前述のようにどの学年でも、教職員・生徒間だけでなく、生徒・保護者間の数値にも違いがあることから、教職員にも保護者にも言えていない生徒も多いかもしれない。

○この予想を検証するために、「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」に対して「あまりあてはまらない」もしくは「あてはまらない」を選択した生徒のみを抽出し、「心配ごとや悩みを相談する相手はいますか？」についても調べた。

(次ページ参照)

「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」に対して「あまりあてはまらない」もしくは「あてはまらない」を選択した生徒のみを抽出して検証したところ、以下のような分布になった

(1年生)	心配ごとや悩みを相談する相手はいますか？					
先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる ↓	保護者	友人	先生	その他	なし	合計
あまりあてはまらない	18	27	1	3	4	53
あてはまらない	5	4	0	0	5	14
合計	23	31	1	3	9	67
割合	34%	46%	1%	4%	13%	100%

(2年生)	心配ごとや悩みを相談する相手はいますか？					
先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる ↓	保護者	友人	先生	その他	なし	合計
あまりあてはまらない	20	33	1	6	13	73
あてはまらない	4	7	1	2	5	19
合計	24	40	2	8	18	92
割合	26%	43%	2%	9%	20%	100%

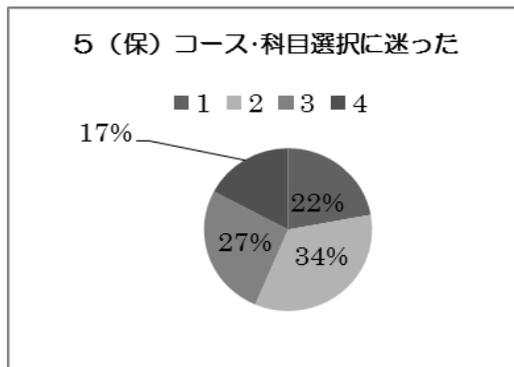
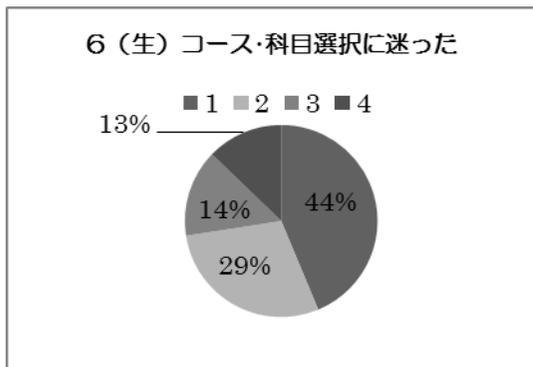
(3年生)	心配ごとや悩みを相談する相手はいますか？					
先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる ↓	保護者	友人	先生	その他	なし	合計
あまりあてはまらない	17	26	4	2	8	57
あてはまらない	4	13	0	1	3	21
合計	21	39	4	3	11	78
割合	27%	50%	5%	4%	14%	100%

○「相談する相手がいない」と答えた生徒が抽出者の10%～20%いることがわかった。特に、2年生はこちらの割合も明らかに大きく、実際に教職員にも保護者にも言えていない生徒もいると考えられる。いじめに関するアンケートをどのように活用すべきか、今後検討の必要が感じられる。

iii) コース・科目選択の迷い

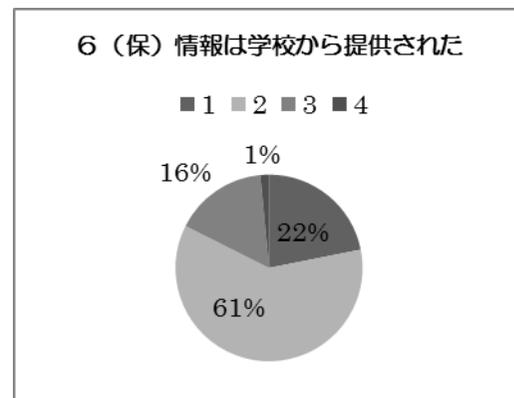
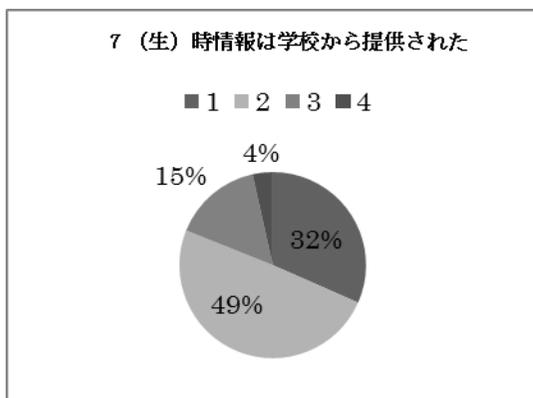
(生徒) 6. 「コース選択や科目選択に迷った (迷っている)」

(保護者) 5. 「子どもはコース選択や科目選択に迷った (迷っている) ようだ」

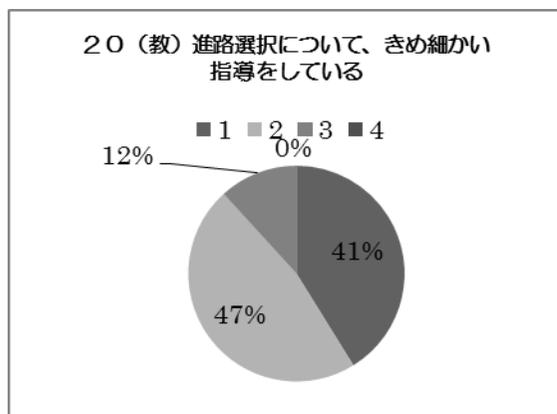


(生徒) 7. 「コース選択や科目選択のための情報は学校からよく提供された (されている)」

(保護者) 6. 「子どもにはコース選択や科目選択のための情報は学校からよく提供された (ている)」



(教員) 20. 「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」



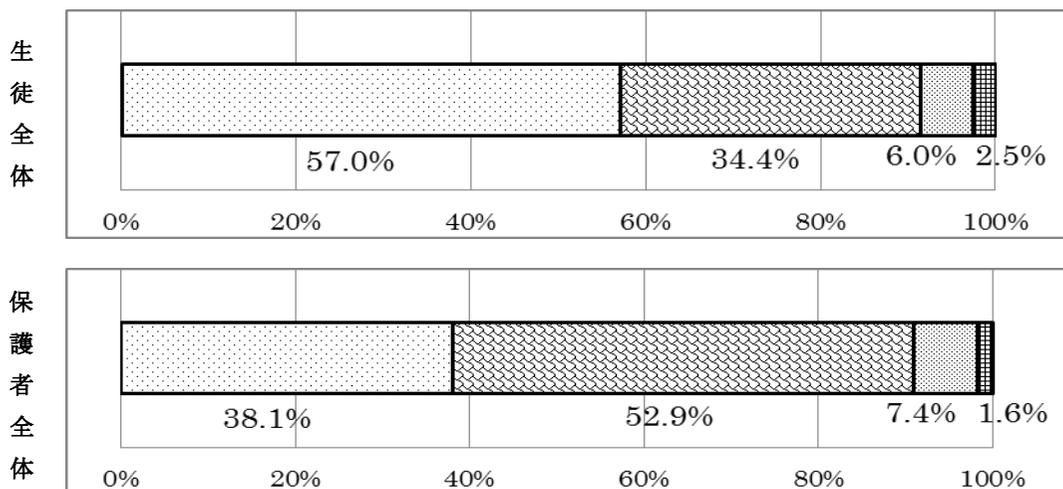
○保護者も生徒も選択には迷ったが、そのとき情報提供がされたと感じているようだ。選択に迷って、情報提供されなかったと考える (と思われる) 生徒 4%、保護者 1%がいる。

○コース選択・科目選択に迷う生徒が年々増加している。アンケートを始めた当初は 30%前後を推移していたが、2014年に 37%となり、今年初めて 40%台となった。

iv) 必要科目選択

(生徒) 8. 「自分の進路に必要な科目が本校の授業から選択できる」

(保護者) 7. 「子どもの進路に必要な科目が本校の授業から選択できる」

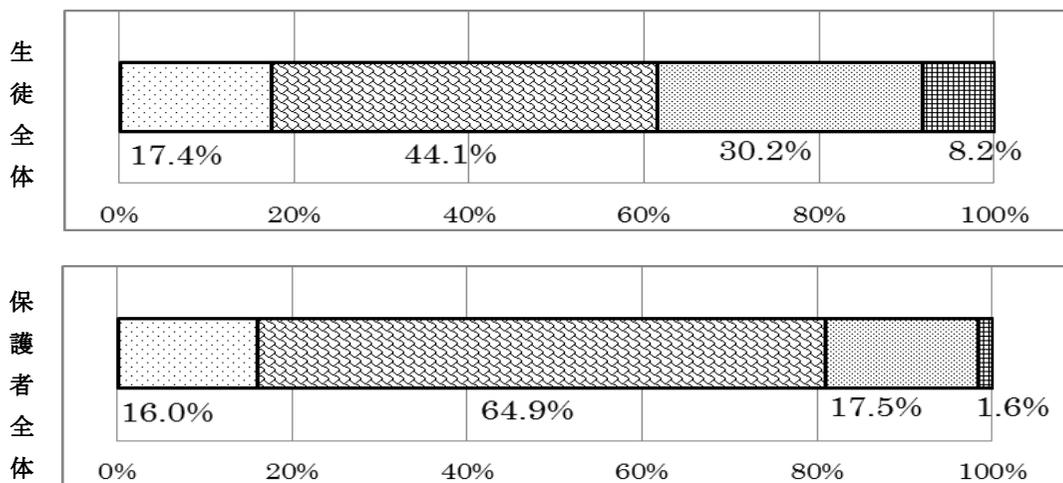


○ここでは、生徒の答えと保護者の答えに著しい差（20%程度）がみられるものをあげてみた。生徒の方が身を持って実感している分、積極的に「よくあてはまる」と答えた割合が多かったように見受けられる。いずれにしても肯定的な回答が全体の9割を占めている。

v) 命の大切さや社会のルール

(生徒) 17. 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」

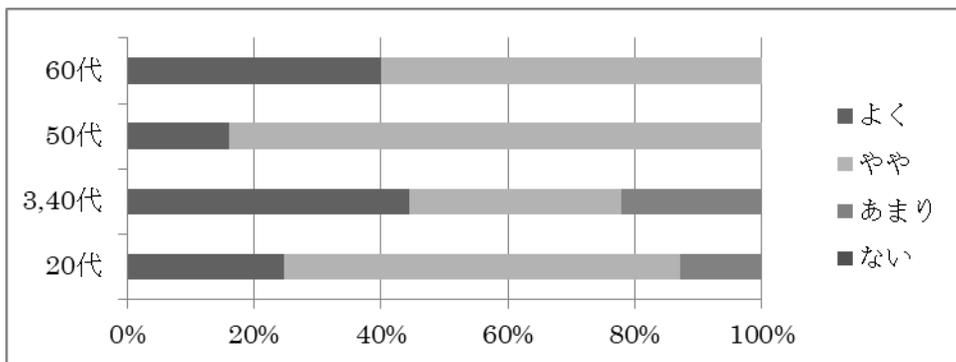
(保護者) 19. 「本校は生命を大切にすることや社会のルールを守る態度を育てようとしている」



○ここでも大きな差が見られた。設問に対して「ややあてはまる」と答えた割合は保護者が圧倒的に多い。生徒は「特別に機会が設けられたかどうか」で判断しているようだが、保護者は日常の活動も考慮して答えて下さっているように見受けられる。

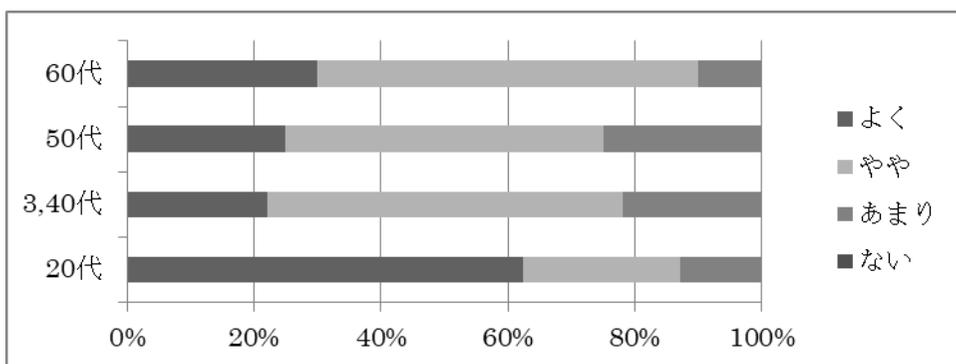
vi) 教員の世代間格差について

① 「生徒は熱心に授業を受けている」



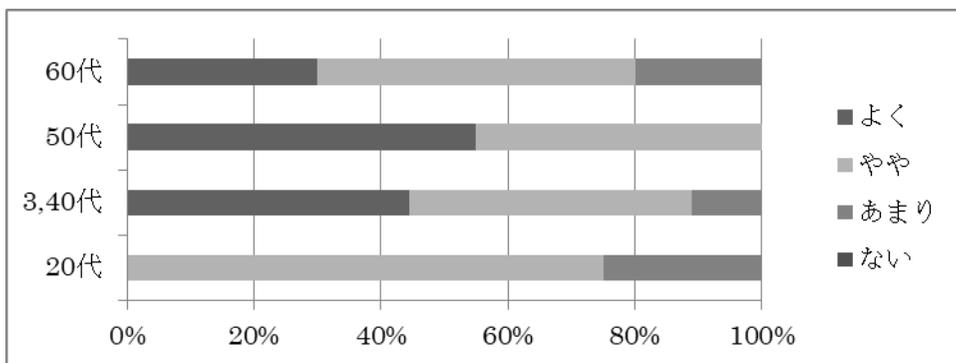
○3,40代と50代の差が激しい。因みに20代の昨年は80%が「よく」だった。しかし、今年はずか25%。この差はどこから？

② 「学校の教育活動について、日常的に話し合っている」



○20代が突出して高評価。コミュニケーションが図られているのか。

③ 「各教科において、教材の精選・工夫が行われている」

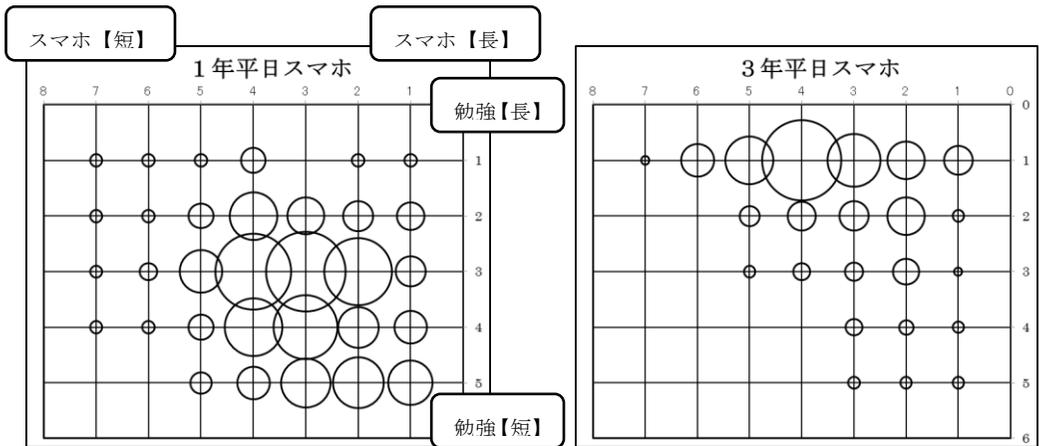


○20代は「よく」が0%だった。昨年度は50%だったのだが・・・。

2. 相関関係を見て

i) 平日の学習時間とスマホ利用時間

縦軸：平日の学習時間、 横軸：スマホ利用時間

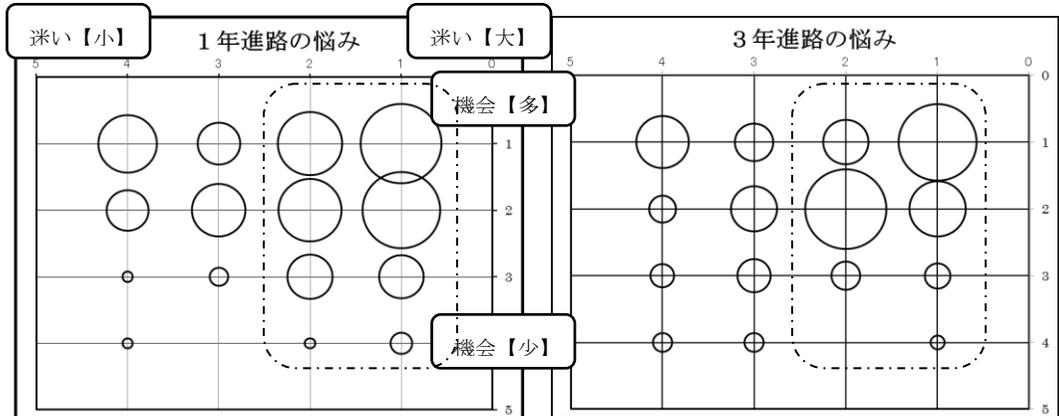


- 「携帯・スマホの利用時間が短い＝学習時間が長い」とは言い切れない？
もしそうなら左上から右下に分布が偏るはず。(3年生はやや左上に偏っている様子)
- 1・2年生の間に大きな違いはない(平日に学習時間の長い2年生が数名?)
- 3年生は学習時間のピークがおそらく上限を超えている(特に平日)

ii) 進路の悩みと進路を考える機会

縦軸：将来の進路や生き方について考える機会がある、

横軸：コース選択や科目選択に迷った(迷っている)



※ --- で囲っているのは、横軸で「迷った(迷っている)」に対して「よくあてはまる」または「ややあてはまる」と回答した生徒である。

- 全体的に、将来についてよく考えている。
- コース選択、科目選択に迷っている生徒は、進路についてよく考えているようだ。
- 3年生になると進路が定まり、やや図の左下に向かって移動している様子がみられる

3. 経年変化

i) 単位制当初と今年度の比較から

肯定的回答：「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計

否定的回答：「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」の合計

ア) 教職員について

○「本校の生活指導について、適切な指導が行われている」

肯定的回答が 79%から 91%に上昇。

▽「進路指導で生徒の進路意識を啓発し、意欲を高める工夫をしている」

否定的回答が 12%から 20%へ上昇。20%を超えたのは初めて。

▽「様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる」

否定的回答が 13%から 25%に上昇（16・17年度のみと比較）。

▽「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」

否定的回答が 16%から 29%に上昇（16・17年度のみと比較）。

イ) 生徒について

・「進路決定に必要な資料や情報を自分で集める努力をしている」

肯定的回答が 56%から 71%へ上昇。スマホ・ネットの影響か。

・「自己管理能力は十分ある」

肯定的回答が 66%から 76%に上昇。なぜ？

・「あなたは現在、塾・予備校などに行っていますか」

「よく」が 34%から 44%に上昇。特に低学年からの増加がみられる。

ウ) 保護者について

・「本校は施設設備が充実しており、学習・部活動環境に恵まれている」

否定的回答が 11%から 26%に上昇。老朽化？ 生徒の数値はそれほどでもない。

・「本校に入学させて満足している」

否定的回答が初めて 10%を超える。前期から後期入試に変わった影響はあるのか。

ii) 生徒「科目選択に迷っている（いた）」

生徒 6 「科目選択に迷っている（いた）」が年々増加していることに着目してみた。

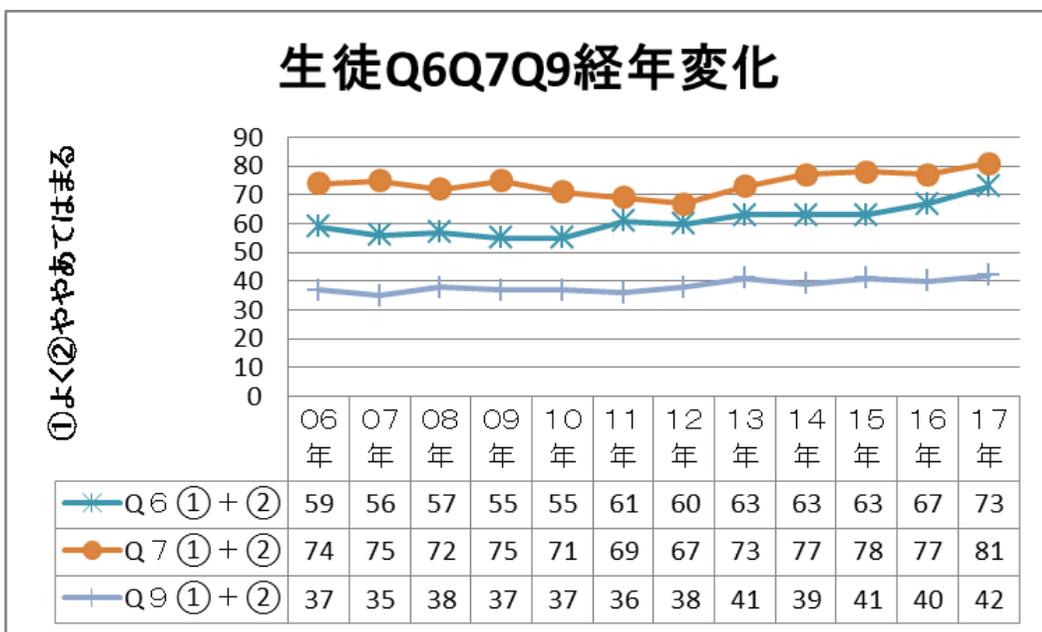
その背景を考えるにあたって、Q 7、Q 9 を参考にした。

生徒 Q 6 科目選択に迷っている（いた）

生徒 Q 7 科目選択のための情報は学校からよく提供された

生徒 Q 9 進路決定に必要な資料や情報を自分で集める努力をしている

「①よくあてはまる」と「②ややあてはまる」の合計数の経年変化は次のグラフ。



- 「Q6 科目選択に迷っている」についての「①よく+②ややあてはまる」の数が、調査開始の06年よりも14ポイント増加している。しかしそれは学校から科目選択の情報が提供されないと感じる生徒が増えているからではなく（Q7のグラフより）、微増ながらも学校からの情報提供には肯定的な捉え方をしている生徒が増えている。「Q9 進路決定に必要な資料や情報を自分で集める努力をしている」が少しずつ増加していることから、生徒の進路選択に関する関心意欲が増し、科目選択および進路選択に対して真剣に向き合う生徒が増えたと言えるのではないか。また、大学の学部学科および選抜方法の多様化や、インターネットを通じて情報にアクセスしやすくなったことなどが要因だとも考えられる。

4. 期別特性

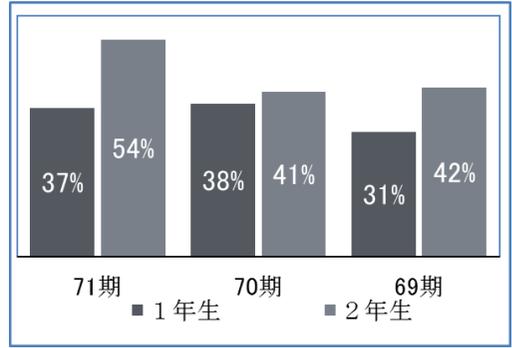
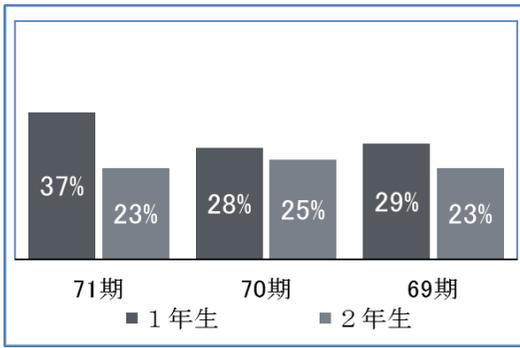
i) 71期生（現2年生）について

いくつかの点で、他の期とはやや異なる71期生の特性のようなものが見られる。特徴的な項目について、グラフで比較を試みた。

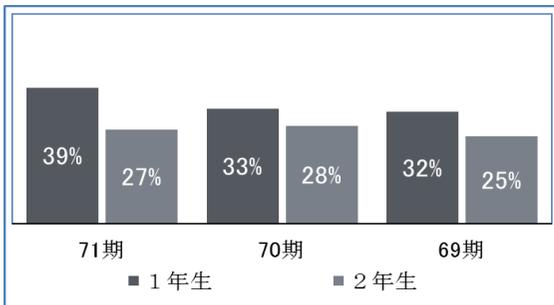
<次ページのグラフ>

- ①左側：コース選択や科目選択のための情報は学校からよく提供されている（生徒）
- ②右側：コース選択や科目選択に迷った（生徒）

いずれも「よくあてはまる」と答えた生徒の割合を示す。



○左側のグラフから、71期生は1年次では情報提供が十分と感じている生徒が他の期よりも多かったにも関わらず、2年次では他の期と同じ程度まで減少している。1年次での割合が多かったことは評価できるが、2年次で14%も減少しているのは少し気になる。生徒の様子を見ていても、2年次で科目選択について疑問を持っている生徒は多かった。



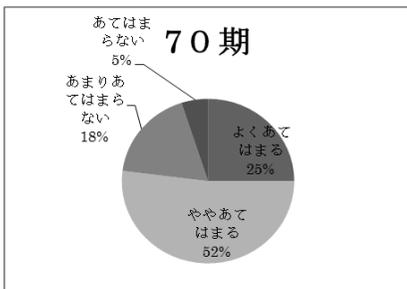
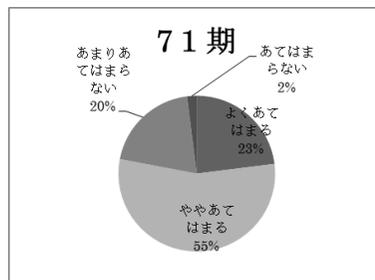
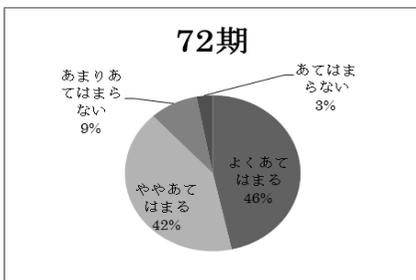
③「本校に入学して満足している」(生徒)

○1年次では本校に満足していたが、2年次で評価を下げた生徒の割合が他の期に比べて多い。これも①同様に、2年次での割合が低いわけではないが、1年次との比較をすると下がり幅は大きい。

いちがいいには言えないが、「進路選択や科目選択での悩みの増加」が、「本校入学の満足度」を低下させた一因になっているのかも知れない。

ii) 72期生(現1年生)について

「コース選択や科目選択のための情報は、学校からよく提供された」



○合格発表後から始まるガイダンス、6月のガイダンス、仮登録、10月のガイダンス、本登録に関しては、生徒たちを見ていて、ただただ大変なように思っていたが、最近では72期生も自分のこととしてしっかりと考えているように見受けられる。様々な悩みはあると思うが、学校からの情報提供については十分に満足している様子が伺える。

因みに、71、70期はそれぞれ2年生、3年生としての数字であり、学年進行としては例年通りであるが、1年次に限って見た場合でも、72期生は「よくあてはまる」の割合が高い。単位制に改編された直後の頃は1年生であっても、上の71期、72期のような数字を示していた。絶対的な情報提供量にも変化があるのかもしれない。

しかし、実は72期生は他の様々な質問項目に対する回答でも、他の期が1年次だった頃と比べてかなり肯定的な回答が多いことが確認されている。

※ 1年次に「よくあてはまる」と答えた人数の割合(%)

質問	内容	67期	68期	69期	70期	71期	平均	72期
1	学校へ行くのが楽しい					43	43	46
2	授業集中	17	18	19	18	13	17	25
3	授業内容理解	8	7	9	7	8	7.8	14
4	先生に聞く	13	12	15	11	12	12.6	17
5	生き方機会					39	39	45
6	選択に迷った	36	24	31	38	37	33.2	42
7	情報提供	27	32	29	28	37	30.6	47
8	科目選択可能	51	54	51	57	57	54	65
9	資料収集努力	12	15	13	16	15	14.2	19
10	相談できる先生					17	17	19
11	保健室、相談室					9	9	10
12	生活習慣の確立					25	25	37
14	行事の有効性	15	16	19	17	24	18.2	32
15	行事への積極的参加	35	42	34	38	41	38	41
16	授業で生き方					13	13	13
17	命の大切さ機会					17	17	22
18	クラブと勉強	20	14	20	18	21	18.6	23
19	自己管理能力	17	22	13	20	21	18.6	25
20	学習・部活環境良好	33	28	25	29	35	30	32
21	入学して満足	41	35	32	33	39	36	36
	(「よく」+「やや」)	84	82	78	84	79	81.4	75

このように、あらゆる項目で、「よくあてはまる」と積極的に肯定的回答をした生徒数が上回っている。学校の様々な場面を肯定的に受け入れているところは、「素直さ」と取ればいいのか、学年団を中心とした教員の努力の成果とみるべきか。

ただ、期待される「鳳高校に入学して満足している」という質問への回答に関しては、表からもわかるように、例年通りである。残念というべきか。

5. その他、今年の特徴など

○生徒「心配事や悩みを相談する相手はいますか」

友達に約半数が相談しているが、2014年の68期（1年）、67期（2年）、66期（3年）から保護者に相談する生徒が少しずつ増えている。先生にはあまり相談しない。

○生徒「施設、設備が充実しており、学習・部活動環境に恵まれている」

約7割の生徒が満足しているが、残りの3割は何なのか。改善できるところはしてあげてもいいのでは。生徒からエアコンの効きが悪い、グラウンドがでこぼこなどの不満を聞くことがある。

○生徒・保護者・教員「自己管理能力は十分ある」

生徒、保護者については「よくあてはまる」と「あてはまる」で約7割を占めているが、教員は約5割である。チャイム前に事前に準備をできていない、忘れ物や紛失、寒いのに半袖の体操服など、できていない生徒がいる。また、できている生徒ができていない生徒に注意や促す発言を言える生徒が減っているように思う。

○教員「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」（新設）

回答	20代		3, 40代		50代		60代		全体	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1	3	38	3	33	7	33	3	30	16	33
2	4	50	4	44	10	48	7	70	25	52
3	1	13	2	22	4	19	0	0	7	15
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

世代にかかわらず、概ね肯定的。地域への新聞発行や、ホームページの更新頻度の増加が評価されているのか。

6. 終わりに

今年も例年通り自己診断を行うことができました。改めて皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

分析作業をする中で、多岐にわたる様々な項目について、生徒たちも保護者の方々も、もちろん先生方も誠実に回答を下さっている様子がよくわかりました。さらに、毎年 OP21 委員の先生方にはレポートをお願いし、面倒をおかけしていますが、今年も本当に前向きなレポートが多数集まりました。報告書自身は拙いものではありませんが、できれば具に結果を観察していただき、関係各所で活用されることを委員一同願っています。